

2014年12月18日

アメリカ合衆国大統領  
バラク・H・オバマ 殿

原爆製造施設の国立公園化計画に反対する

日本原水爆被害者団体協議会

アメリカ上・下院は、日本に投下した原爆の製造に関わったマンハッタン計画関連施設を国立公園に指定する法案を可決し、今後はオバマ大統領が署名をする手続きになると伝えられている。

貴国が1945年8月6日広島に、9日長崎に投下した原爆によって、私たち被爆者は親・兄弟・姉妹・友人・親戚を殺され、傷つけられ、生き残ったものも長期の苦しみを強いられている。

原爆は、大量無差別に人間を殺傷し、生き残ったものにも放射能によって地獄の生活を強いる非人道きわまる兵器であり、人類と絶対に共存できない。

私たちは、私たちのような核の被害者を世界のどこにもつくりたくないよとの願いを込めて「ノーモア・ヒバクシャ」と叫び、核兵器は一発残らず廃絶してほしいと訴え続けている。

しかし貴国は、原爆投下から69年経った今日まで、原爆使用の正当性を主張しつづけ、原爆被害者への謝罪をしていない。

私たちは、「マンハッタン計画施設の国立公園化」が、原爆開発と使用の正当化を強調するものになることを危惧し、絶対に許すことはできない。

大統領はかつて、核兵器を使用した唯一の国としての反省を込めて「核なき世界」の実現を訴えた。その信念に従い、大統領がこの法案成立への署名をしないよう要請する。